

News Letter



文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)
YAMANASHI NETWORK
FOR DIVERSITY & INNOVATION

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)



Vol.3 2021年7月発行

ご報告

令和3年度Coの花フェロースhip制度の 支給対象学生が決定しました

Coの花フェロースhip制度は、将来を担う創造性に富んだ女性研究者の育成に向け、研究に専念できる環境の提供とキャリアパスの確保を支援するもので、大学院博士課程に在籍する優秀な女子学生に対し、研究専念支援金及び研究費が支給されます。

【令和3年度Coの花フェロースhip支給対象学生】

所属	氏名	研究計画	指導教員
統合応用生命科学 専攻生命農学コース	石山 詩織	胚発生初期に栄養不良培地αMEM培地にて体外培養し、産まれたマウスを用いて、日本人型2型糖尿病サイトカインストームモデルを構築するとともに、サイトカインストームによる感染症の重症化を抑制しうる食品因子(大麦、EPA等)を探索する。	望月 和樹
ヒューマン ヘルスケア学専攻	今井 崇恵	文部科学省の調査によると小学校教員の一日の休憩時間の合計は約6分である。また、精神疾患による休職者は5482名となり、近年、増加傾向にある。本研究では、休憩時間の短さが心身に与える影響に関するアンケート調査を行い、統計学的手法を用いて分析を行う。	宮村 季浩

ご報告

Coの花支援を実施しました

山梨大学では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でアルバイト収入の減少など経済的に困窮する本学女子学生に、生理用品の配布を実施しました。

本事業は、経済的負担軽減を図り、女子学生の快適な暮らしを守ることを目的に防災備蓄品などを活用し、試行的に実施したものです。甲府キャンパスでは4月28日から5月14日まで、医学部キャンパスでは5月6日から14日までの間の平日に実施しました。

事業を開始した4月28日は、甲府キャンパスの会場を訪れた留学生を含む学生31人に、生理用品一袋を手渡しました。また、女性が抱える体の不調などを説明する動画を会場に流したほか、生活の困りごとなどを聞くアンケートを実施しました。訪れた学生からは、「アルバイト先が休業になり収入が少なくなったので大変助かります。また、このような機会があれば利用したいと思います」とコメントがありました。

本学では、本事業を通じて学生の困窮度やニーズ等を把握し、必要に応じ今後協力企業等を募るなど、第2弾、第3弾と継続することも検討しています。



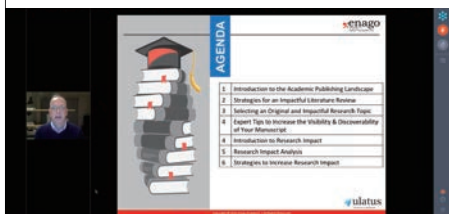
ご報告

英語論文の書き方セミナー(オンライン)を開催しました

令和3年6月16日(水)、山梨大学および山梨県立大学の教員・学生、シミックホールディングス株式会社および株式会社はくばくの社員を対象としたスキルアップセミナー“Online Seminar for Writing Academic papers in English”を開催しました。英文校正エナゴの協力を得て、Dr. Richard de Grijsを講師として招聘しました。

セミナーでは、“How to Conduct an Impactful Original Research Study”と題してご教授いただきました。質疑応答の時間には参加者から多くの質問があり、講師のDr. Richard de Grijsから熱心な指導をいただきました。

このセミナーには、86名(セミナー後の視聴も含む)が参加しました。参加者の皆さんからは、“The webinar was very informative, thank you!”「自分の業績をしっかりとPromoteすることが大事であるとわかった」などの感想をいただきました。



おしらせ

復帰支援制度および論文投稿費と 英文校閲費支援制度の利用者を募集します（※学内限定）

【女性研究者に対する産休・育休からの 復帰支援制度】

この制度は、出産・育児によって研究活動を中断した研究者が、職場復帰を果たし、研究の停滞を取り戻すことを促進するために、復帰後における研究活動及びそれに伴う経済的負担に対して支援することを目的とするものです。

【支援対象者】

本学に在職する研究者のうち、教授・准教授・講師・助教の職位にある者で、産後の特別休暇または育児休業から職場復帰して2年以内の者。

【助成の対象】

支援対象者が実施する研究活動に係る経費（物品費、旅費、謝金）。

【助成額等】

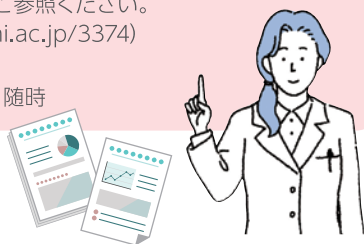
上限10万円。ただし、予算の状況により助成額が減額される場合があります。

【申請の方法】

男女共同参画推進室HPをご参照ください。
(<https://danjo.yamanashi.ac.jp/3374>)

【募集期間】

令和3年4月～9月（前期）随時



【女性研究者に対する論文投稿費と 英文校閲費支援制度】

この制度は、ライフイベントにより研究活動が停滞した女性研究者の論文作成に伴う経済的負担の支援を行うことを目的とするものです。

【支援対象者】

本学に在職する研究者のうち、次の各号を満たす者。

- (1) ライフイベント中、もしくはこれに相当すると男女共同参画推進室長が認める者。
- (2) 上記(1)の条件を満たす研究者で筆頭著者として論文を作成する者。

【助成額等】

論文1編あたり上限5万円とし、助成金の用途は論文投稿費（英文校閲費を含む）とします。なお、一人が応募できる件数は半期につき1件までとします。

【申請の方法】

男女共同参画推進室HPをご参照ください。
(<https://danjo.yamanashi.ac.jp/3378>)

【募集期間】

令和3年4月～9月（前期）随時

*男女共同参画推進室ではライフイベントを以下のように定義します。
ライフイベント・・・妊娠、出産、育児（小学校卒業までの子の養育）、介護（2週間以上の期間にわたり日常生活を営むのに支障がある家族の生活支援や世話）を指します。

育休取得者に インタビュー

山梨大学では令和2年度に、それぞれが個性や能力を発揮し、地域と世界に向けて学びの成果を誇らかに発信することができる、生き生きとした職場環境を整える「イクボス」を目指すことを宣言しました。今回は、山梨大学にて育休取得した男性職員にインタビューを行いました！

Q. 育児休暇を取得した期間を教えてください

A. 6ヶ月間取得しました。

Q. 育児休暇を取得しようと思ったきっかけを教えてください

A. 配偶者が取得してほしいと言ったためです。私自身も制度についての知識があり、子どもが生まれる時には育児休暇を取得したいと考えていました。前例もあったので、取得に関しては前向きでした。

Q. 育児休暇の取得について誰かに相談をしましたか

A. 家族、職場の上司などに相談をしました。

Q. 周りの反応はどうでしたか

A. 職場では好意的に支援してくれる上司もいましたし、同世代の友人には好印象で理解もありました。私自身の父は制度に馴染みもないせいか驚いていましたが、母は賛同してくれました。

Q. 育児休暇中の過ごし方について教えてください

A. 配偶者が育児を主体的に行い、掃除、洗濯、料理などの家事を私が担当していました。3人で近所を散歩したり、買い物に行ったりして過ごしました。

Q. 育児休暇を取得して良かった点があれば教えてください

A. 1番は子どもの成長を間近で感じられた点です。1人ではなく2人、ということで配偶者の精神的余裕にも繋がったと思います。

Q. 育児休暇を取得して悪かった点、困った事があれば教えてください

A. 特にありませんが…
復帰したときに仕事が溜まっていたことです（笑）

Q. 復職はスムーズに行えましたか

A. はい、特に困った事はありませんでした。

Q. 今後、同じような機会があった場合、制度をまた利用したいと思いますか

A. その時の職場環境や仕事内容にもよりますが、ぜひまた取得したいと思います。

Q. 今後育児休暇を取得される方にアドバイスなどがあれば教えてください

A. 私自身、子どもと密接に過ごすことができ、成長過程を間近で感じられとても貴重な時間を過ごせました。仕事との兼ね合いもあると思いますが、みなさんにもぜひ取得してもらいたいと感じます。

